

## 2025 年度事業報告

(1) ダイアベティスに関するアドボカシー活動と予防及び治療に関する正しい知識の普及啓発事業  
ダイアベティスのある人が直面する社会的障壁を払拭し、ダイアベティスがあっても社会で活躍できる環境づくりを目指して、以下の諸活動を展開した。

### 【市民向け】

#### 1-1 「さかえ」の発行

月刊の協会誌として、雑誌名から「糖尿病ライフ」を削除して「さかえ」とした。雑誌 12 号を発行するとともに、本誌の内容を Web ページで限定公開した。Web ページの利用者数は 1,500 人/月で推移している。

#### 1-2 ダイアベティス関連書籍の発行

「糖尿病食事療法のための食品交換表」、「糖尿病食事療法のための食品交換表活用編」、「糖尿病性腎症の食品交換表」、「糖尿病治療の手びき」を割引価格で医療機関に提供した。取扱い冊数は、それぞれ 420 冊（前年比-182 冊）、0 冊（±0 冊）、0 冊（±0 冊）、40 冊（-80 冊）となった。

#### 1-3 ダイアベティスウィークの実施

11 月 9 日（日）～15 日（土）をダイアベティスウィークとし、日本糖尿病学会との共催で、「みんなで正しく理解しよう「ダイアベティス」」をテーマに、各都道府県糖尿病協会がダイアベティスに関する講演会、血糖測定、医療相談、栄養相談の事業を実施した。

#### 1-4 啓発イベントの実施

企業委員会所属の企業との共催で、オンラインでの市民向け公開講座を実施した。

- ・11 月 9 日「歩いて学ぶダイアベティス“そとでるウォーキング”」（ノボ ノルディスク ファーマ共催）参加：891 人
- ・11 月 16 日「ひとりで頑張るだけじゃ、血糖値は下がらないかも」（日本イーライリリー/田辺ファーマ）参加：1,383 人
- ・11 月 30 日「シン・ダイアベティス」（帝人ファーマ共催）参加：918 人

#### 1-5 World Diabetes Day イベントの実施

WDD 実行委員会に協力し、各地で実施するブルーライトアップイベントに上限 35 万円の助成金を支出した。ブルーライトアップ数は、318 ヲ所と過去最高を更新した。また、資源節約の観点からチラシを廃止し、公式ポスター約 50,000 枚を配布した。

#### 1-6 Team Diabetes Japan の運営

国内外のマラソン大会に出走し、ダイアベティス予防や治療についての知識啓発を行った。

- ・12 月 14 日 ホノルルマラソン（ハワイ）参加：48 人
- ・2026 年 3 月 8 日 かつしかふれあい RUN フェスタ 2026（東京都）参加：81 人

#### 1-7 ダイアベティスウォークラリーの実施

「歩いて学ぶダイアベティスウォークラリー」を都道府県糖尿病協会、ノボ ノルディスク ファーマ株式会社との共催で 3 月～11 月に対面開催した。雨天による中止が 16 件となり、開催数は 33 件（前年比-1）、参加者数 3,013 人（-29）となった。

#### 1-8 KiDS プロジェクトの展開

小児糖尿病の正しい理解促進を目的に、教職員を対象とする出張教室を実施した。

- ・7月22日 藤沢市立俣野小学校（神奈川）参加：43人
- ・8月19日 福岡市立東住吉小学校（福岡）参加：19人
- ・8月19日 福岡市立板付小学校（福岡）参加：45人

#### 1-9 就労と治療の両立支援

就労世代への啓発として、企業・患者・医療者それぞれに働きかける事業を検討した。

#### 1-10 デジタルツールによる知識の普及

治療支援 DVD シリーズや「さかえ」 Web ページ、ダイアベティス学習アプリを利用して、幅広い世代にダイアベティスの知識の普及を図った。

#### 1-11 ダイアベティス関連企業 EXPERT 社員認定制度

- ・認定試験を12月、2026年3月18日、24日に実施し、157人が受験した。2025年度までの認定者数は3,520人となった。
- ・初の更新を控え、更新料の無料化や更新時期の延長などの緩和策を講じた
- ・2026年3月に更新を迎える1,773人のうち、510人が更新した

#### 1-12 ダイアベティス治療を解説する啓発資料の開発

- ・腎症対応の「食事療法かきくけこ」の内容を見直す改訂を行った
- ・肥満治療の啓発を目的とするシリーズ第4弾「食事療法はひふへほ」の編集に着手した

#### 1-13 肥満部会

肥満をダイアベティスの前段階と位置づけ、糖尿病予防の観点から肥満の正しい知識を啓発する取り組みを開始した。「肥満の解消、今の一步が未来を変える」のキャッチコピーを掲載したポスターを制作し、厚生労働省、日本経済連合会（経団連）、関西経済連合会（関経連）の後援を受けて就労世代をターゲットにした啓発を推進する。

### 【医療者向け】

#### 1-14 「DM Ensemble」の発行

購読者数の伸び悩みを受けて、12月発行の Vol.14 No.6 をもって休刊した。

#### 1-15 登録医・糖尿病認定医・登録歯科医制度の展開

ダイアベティスケアの質の確保をはかることを目的に、登録医・糖尿病認定医の認定を行った。

- ・登録医：新規登録 46人、計 1,403人（前年比+2人）
- ・糖尿病認定医：新規登録 105人、登録医からの昇格 29人、計 3,855人（前年比+136人）
- ・登録歯科医：新規登録 214人、計 2,426人（前年比-41人）

#### 1-16 CDE ネットワークの運営

CDEL 養成団体の連携促進と支援を行った。

- ・第12回 JADEC 年次学術集会で「CDE meeting2025」を開催し、47団体 90人が参加した。
- ・CDE ネットワークブロック別運営連絡協議会を計7回実施した。

#### 1-17 ダイアベティスカンパセーション・マップ™ を活用したダイアベティス学習支援の普及

- ・カンパセーション・マップの普及を目指し、ファシリテーターを育成する研修会を日本イーライリリー株式会社の協力を得てトレーニングを8回実施した。6月15日（神戸市）、9月7日（さいたま市）、9月28日（JADEC 本部）、11月16日（佐久市）、11月23日（沼津市）、11月

30日（山形市）、2026年2月22日（中央市）、3月15日（北九州市）受講者合計：114人

・第12回JADEC年次学術集会で、体験セッションを実施した。受講者合計：54人

#### 1-18 JADEC カードシステム®を活用した診療支援の普及

・カードシステム研修会を支援するトレーナー育成研修とすべてのカードの使用が可能となる「応用編」の研修を、ノボ ノルディスク ファーマ株式会社の協力を得て3回実施した。10月25日（那珂市）、2026年1月18日（福岡市）、2月15日（飯田市）に実施した。

受講者合計：78人

・第12回JADEC年次学術集会で、体験プログラムを実施した。受講者合計：191人

・茨城県から委託され、保健師・薬剤師を対象とするカードシステム研修会を2回実施した。受講者合計：24人

・カードシステムの周知を目的とするミニレクチャーを、製薬企業の協力を得て5回実施した。受講者合計：567人

・カードシステムの全体像をまとめたガイドブックを制作し、研修会参加者に配布した。

・カードシステムのデジタル化を推進し、タブレット端末を利用して生活習慣病管理料支援セットに基づく支援を行うことができるシステムを開発した。

#### 1-19 JADEC eラーニングの運営

・アカウント登録者は、CDEL 団体：50 団体・6,886 人（前年比+1,394 人）、登録医・認定医：779 人（+109 人）、登録歯科医：2,537 人（+220 人）、企業：34 社・8,014 人（+195 人）その他：703 人（+348 人） 合計 18,919 人（+2,212 人）となった。

・新規に4コンテンツを公開したほか、既存の5コンテンツの改訂を行った。

・DiaMAT 認定用の eラーニング 7 コンテンツを新規に公開した。

#### 1-20 JADEC 年次学術集会の開催

第12回JADEC年次学術集會を、遅野井健・道口佐多子両会長のもと、7月19-20日にパシフィコ横浜ノースで開催した。8月1日~9月30日まではオンデマンド配信を行い、合計参加者は2,403人となった。両会長が普及に注力するカードシステムを中心に、特色あるプログラムが組まれた。

#### 1-21 地域での医療者対象啓発活動の支援

地域の医師会・歯科医師会や企業が開催する医療者向け研修会を、登録医・糖尿病認定医・登録歯科医の認定更新の研修会として310件認定した。

#### 1-22 医療者・介護支援者の連携強化

ダイアベティスのある高齢者の在宅医療支援強化を目指して、医療者と介護支援者との情報交換を促進する。「JADEC 在宅医療支援 Q&A 集」の充実を図る。

#### 1-23 動画資料による学習支援

ダイアベティスカンバセーション・マップ、JADEC カードシステム等の研修に動画を採用し、より簡便な学習方法を提供した。

#### 1-24 企業との共催セミナー

企業委員会参加企業との共催で、医療者向けアドボカシーセミナーを実施した。

・11月14日 ダイアベティスアドボカシーWebセミナー（田辺三菱製薬）参加者数：9,347人

## (2) ダイアベティスの予防及び治療に関する調査・研究事業

### 2-1 調査研究

- ・経口糖尿病治療薬(インクレチン関連薬を含む)投与に関する実態調査研究(UNITE Study) 学術誌に論文を準備した。
- ・インスリン製剤とシタグリプチン併用による有用性の検討-前向き観察研究-(I-UNITE Study) データ解析を行い、学術誌への投稿に向けて論文を準備した。
- ・トホグリフロジンの安全性および有効性の検討-前向き観察研究-(AYUMI) データセットを用いた追加解析を行い、学会での報告ならびに学術誌への論文投稿を準備した。

### 2-2 研究助成

- ・若手研究者助成として 15 件 (10,500,000 円) の助成を採択した。
- ・メディカルスタッフ育成研究助成として 8 件 (4,000,000 円) の研究を採択した。
- ・研究・教育基金研究助成として 27 件 (19,900,000 円) の研究を採択した。
- ・研究・教育基金高齢者臨床研究助成として 3 件 (9,000,000 円) の研究を採択した。

### 2-3 「人を対象とする生命科学・医療系研究」の倫理審査

ダイアベティスケアのエビデンス作成に向けたメディカルスタッフの研究実施環境の整備として、ダイアベティスに関する研究の倫理審査を 17 件実施した。

## (3) 糖尿病のある人及び家族に対する支援事業

### 3-1 友の会の活動支援

会員数の減少等により友の会の休会 8 件 (前年比+5 件)、退会 36 件 (-3 件) となった。一方で、新規設立の友の会は 7 件 (-2 件) となった。

### 3-2 ダイアベティスケアに役立つ協会グッズ、冊子類の発行

- ・ダイアベティスの呼称浸透を目指して、7 月に各種グッズの「糖尿病」表記を「ダイアベティス」に切り替える改訂を行った。
- ・糖尿病連携手帳は「JADEC 連携手帳」と名称を変更し、製薬企業等 25 社の協賛を得て 1,670,264 部発行した。また、糖尿病腎症重症化予防の取り組みで、68 自治体が 7,038 冊の連携手帳を活用した。
- ・自己管理ノートを医療機器メーカー等 9 社の協賛を得て 1,104,000 部発行した。
- ・緊急時 ID カードは 2 社の協賛を得て、11,000 部発行した。
- ・ダイアベティス食事療法冊子「あいうえお」は、9 社の協賛で 183,000 部を配布、「かきくけこ」は、6 社の協賛で 50,000 部を配布、「さしすせそ」は、5 社の協賛で 145,000 部を配布した。これらの冊子は、自治体の保健指導でも活用され、53 自治体が合計 3,268 冊購入した。

### 3-3 小児ダイアベティス対策

- ・ダイアベティス・キッズキャンプの主催

ダイアベティスのある子どもの医療教育を目的とするキャンプを、7 月～12 月までに 44 カ所 (前年比-3) で実施した。参加キャンパー数は 929 人 (前年比-78 人)、うち初参加は 250 人となった。ボランティアスタッフは 3,557 人 (前年比-445 人) となった。この事業は、Tooth Fairy プロジェクト (日本財団・日本歯科医師会) より 9,010,000 円の助成を受けて実施した。各キャンプへの補助金は、合計 13,213,325 円を支出した。

・ロジャー・モーアプロジェクト

Roger Moore 氏からの寄付を得て、1型糖尿病のある子どもを対象とする継続的な支援事業を検討した。初年度は、発症直後の子どもと家族の支援に重点を置き、「全国交流会」の実施と「サポートブック」の発行事業化を決定した。11月14日にプロジェクト開始を宣言した。

3-4 インスリンメンターの活用

ピアサポートや糖尿病啓発を行うインスリンメンターを、糖尿病・キッズキャンプ等に派遣した。キャンプでの講演：4人、KiDSプロジェクトでの講演：2人、学術集会・研修会での講演：2人

(4) 糖尿病に関する海外関係団体との連携事業

4-1 IDF、IDF-WPR

4月7-10日にタイ・バンコクで開催された IDF Congress の総会・学術集会に代議員を派遣し、国際交流を行った。

4-2 AASD

団体運営助成金として 4,000,000 円を支出するとともに、事務局業務や台湾で開催された 17th AASD Scientific Meeting の運営サポートを行った。

4-3 中央アジアプロジェクト

中央アジア地域の糖尿病ケアサポート支援の目的で、カザフスタンの若手研究者 2 人に対し、3,600,000 円の奨学金を支出した。

(5) その他本協会の目的を達成するために必要な事業

5-1 アドボカシー活動

- ・社会における糖尿病のスティグマ払しょくの一環として、「糖尿病」に変わる呼称「糖尿病」の普及を目指し、市民公開講座や出版物等で情報発信を行った。
- ・新たな啓発対象である肥満にも糖尿病と同様のスティグマが存在することから、記者発表会において肥満のある人へのアドボカシー活動の重要性をアピールした。

5-2 会員増強

- ・糖尿病ウィークにあわせ、友の会入会促進資料を各友の会に提供した。
- ・企業、団体からなる賛助会員数は、39 社（前年比+1）となった。

5-3 都道府県糖尿病協会の運営支援

- ・地域の糖尿病対策の充実および会員増強を目指し、47 都道府県糖尿病協会に対し地域活動費として 48,375,991 円（前年比-4,793,625 円）を支出した。
- ・糖尿病ウィークの活動支援として、糖尿病啓発に役立つ各種資材を提供した。

5-4 サポーター制度の周知

小児糖尿病と国際支援事業のサポートを目的とする、個人の賛助会員であるサポーターを募集した。登録者数は 18,739 人（前年比+19 人）となった。

5-5 他団体との連携

- ・CDEJ および CDEL

各地の CDEL 養成団体の活動を支援するため、48 団体に対し、27,900,000 円（前年比+1,700,000

円)の補助金を支出した。

- ・日本歯科医師会

日本歯科医師会と連携して登録歯科医制度を運用したほか、eラーニングによる学習機会を拡充することにより、登録歯科医の登録・更新増を目指した。

- ・日本糖尿病対策推進会議

日本糖尿病対策推進会議の幹事団体として、推進会議加盟の各団体と連携して糖尿病性腎症重症化予防など、国内のダイアベティス対策事業を実施した。

- ・日本病態栄養学会

食事療法啓発資材の制作におけるデータ利用や学術集会のプログラム共催で連携した。

- ・日本くすりと糖尿病学会

糖尿病医薬品・医療機器等適正化、ならびにDiaMATに関する周知で連携した。

#### 5-5 災害時危機管理対策

- ・災害時ダイアベティス医療支援チーム(DiaMAT)組織化と活動

eラーニングによる災害医療教育を受けたメディカルスタッフ(CDEJ、CDEL 有資格者)のDiaMAT登録を開始した。登録者は72人となった。

- ・JADEC公式LINEアカウント運用

インスリン治療を必須とするダイアベティスのある人を対象とするJADEC公式LINEアカウントを運用した。登録者数：4,464人。9月1日、2026年1月10日にLINEを災害モードに変更して登録者を対象とする災害訓練を行った。合計1,641人が訓練に参加した。

- ・被災者健康支援連絡協議会への参加

災害時の関連団体との連携を目的に、日本医師会で組織する「被災者健康支援連絡協議会」への参加を申請し、承認された。

#### 5-6 広報事業

- ・ACジャパンの支援キャンペーンとして、7月1日から、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、交通の各媒体においてJADECの啓発広告「糖尿病(ダイアベティス)のほんとう」の放送・掲載を開始した。

- ・「JADECグッズの改訂」(7月1日)、「Roger Mooreプロジェクト発足」「ダイアベティス啓発動画コンテスト」(11月14日)、「肥満部会発足」(2026年3月4日)の活動について、プレスリリースを配信した。

- ・facebookに7人の医療者からなるライターが、297回の投稿を行った。facebookで使用した画像をInstagramでも配信した。

- ・沢井製薬株式会社の提供で、河北新報、中日新聞、西日本新聞の各紙11月14日朝刊に、ダイアベティス啓発広告を掲載した。

- ・ダイアベティスの呼称浸透を目指して大正製薬株式会社と共催で「第2回ダイアベティス啓発動画コンテスト」を4月～9月に実施した。応募53点から4作品を受賞作として選出し、広く動画利用を呼び掛けた。

- ・ダイアベティス予防を目的とする肥満部会の活動を周知するため、2026年3月4日、厚生労働記者会にて記者発表会を実施した。13社20人の報道関係者が参加した。

#### 5-7 ダイアベティス医薬品・医療機器等適正化

- ・インスリンのペンデバイスとカートリッジの正しい組み合わせについて、インスリン3社の統

一フォーマットを制作し、周知を開始した。

- ・在宅医療廃棄物の正しい廃棄方法の周知のため、注射製剤一覧に情報を掲載した。
- ・検査時の CGM/CSII の扱いについて、統一見解として検査時の取り外しを啓発した。

#### 5-8 製薬・医療機器・その他企業との連携

- ・JADEC グッズの価格改定にあたり、企業委員会として各社の意見集約を行い、グッズのダイアベティスケアにおける価値の再確認と今後の継続的普及にむけた普及策を検討した。
- ・各企業がダイアベティスのある人向けに制作する情報提供資材の発行前検証を行った。
- ・第 12 回 JADEC 年次学術集会で、「医療者と企業人の共創シンポジウム」を実施し、ダイアベティス関連企業と医療のよりよい関係を議論した。

#### (6) 業務の適正を確保するために必要な体制の整備

- ・理事の職務執行が法令及び定款に適合することを確保するため、理事会運営規則に沿って理事会において重要事項を審議・決定している。
- ・職務執行に係る情報については、理事会にて業務執行理事の執行状況報告を行い、理事会議事録は情報公開規則に沿って据え置きしている。
- ・監事監査を半期及び通期の 2 回実施し、必要な情報提供及び報告体制を整備している。

2025 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。